

速報

日本政策金融公庫 京都支店殿との

「TKC 会員事務所見学会」

平成28年4月19日15:00～17:00 於 新経営サービス清水税理士法人

日本政策金融公庫京都支店の国民生活事業統轄小倉悟様はじめ、7名の方に参加いただきました。TKC近畿京滋会からは、中小企業支援委員会副委員長である久乗哲先生、中小企業支援委員の浪花隆司先生、藤原智緒先生に参加いただきました。

TKC会員事務所としての方針、取り組んでいる書面添付について、説明させていただきます。具体的な手法や活動内容については、税理士の島、監査担当の中村より説明いたします。



代表税理士
清水義子先生

～伝票会計から自計化へ・・・そして巡回監査～

昔は、伝票に起票いただく指導や財務諸表、元帳等の作成をしていましたが、パソコンの普及により監査のスタイルも変わりました。FX2(戦略財務情報システム)で関与先企業が自ら入力したものを、巡回監査支援システムを利用して仕訳等の確認を行い、修正が必要であれば企業様にその場で訂正いただく仕組みをとっています。また、所内に戻り、月次巡回監査報告書という形で巡回監査時に伺った内容や課題等について所長へ報告する体制を取り、これらの積み重ねで、信頼度の高い決算書、申告書になります。そうした指導内容や提案事項等は、「月次巡回監査完了通知書」を出力し企業様にお渡ししています。



税理士
島 陽子先生

TKCのシステムは遡及訂正ができなくなっており、私たちが関与先に毎月お伺いし、データの真実性や網羅性等をチェックし、月次更新したデータをTKCに送信することで、財務諸表が作成できる仕組みになっております。



中小企業支援委員会
副委員長 久乗 哲先生

FX2により毎月巡回監査！

早いところで、翌月5日とか10日には仕訳や取引内容のチェックを行い、業績状況を確認いただいています。



監査担当
中村和弘様

継続MASシステムによる 経営計画策定と予実管理

経営計画を作成し、前年との比較やTKCのBAST(同業他社比較)による立ち位置の確認、また、半年後、決算3ヶ月前ぐらいに「今のままならどうなる」といったシミュレーションをすることで危機感を持っていただいた上で、打ち手を考えていただく仕組みを作っています。

OMS(オフィスマネジメントシステム)による事務所管理体制

事務所の基本となる情報や業務日報は所内の管理には欠かせません。また「関与先カルテ」は、普段、関与先企業に訪問していない所長でも、会社の概況や財務情報等が一目でわかる管理ツールです。

TKC会計人のビジネスモデルはコンプライアンスだと考えております。TKCの巡回監査支援システムやFX2はまさに、税務と会計の双方のコンプライアンスを果たす位置づけのシステムです。継続MASを利用した経営計画策定は、黒字を出すためのツールであると思いますが、予実管理を行う中で事前に納税予測を立て、脱税意識を持たせることなく、納税義務を果たせるように持っていく、まさにコンプライアンスです。

公: 経営計画の策定のタイミングは?

会: 決算3ヶ月前の数値をもとに決算予測を立て、申告が確定するタイミングで補正し、翌期予算を立てます。

公: 「金融機関の営業のタイミングにも役立てそうです。」

公: 今回伺ったFX2のように指導をされたり、経営者が数値を把握されているケースが増えてくれれば銀行としても助かるのですが...

会: FX2シリーズを利用した経理が良いということ、取引先である企業様方に、逆に指導いただけると良いですね。

公: 「決算書の透明性や会計で会社を強くする仕組みがわかりました...」

質疑応答 Q&A

(公:金融公庫様、会:会員先生)

記帳だけでは社長が数字に興味を持たない。だから根気よく指導が必要！



浪花隆司先生

数字をグラフ化するなど、視覚的に社長の興味を引くこともあります。



藤原智緒先生